

令和7年度第3回宮代町立図書館協議会議事録

日時：令和8年3月10日（火）16時00分～17時30分

場所：宮代町立図書館 研修室

- 出席者 委員：山内薫・村山ふさ江・国川恵子・三角由美子・茂木代美・
荒井拓也・石崎徳幸（順不同、敬称略）
事務局：飯山生涯学習室長・川崎主幹、吉岡主事
指定管理者：清水図書館長、永堀一般チーフ、名倉児童チーフ、
荒田（次年度図書館長候補者）

●次 第

- 1 開会
- 2 報告事項 令和7年度下半期事業報告（利用状況等）について資料1・資料2
- 3 その他
- 4 閉会

●会議概要（1省略）

（1）令和7年度利用統計について…清水館長から説明（別添資料参照）

《（1）に関する特記事項》

- ・入館者数については、児童が前年比103%と微増。
- ・資料貸出及び予約状況について、電子書籍が対前年比72%と減少。
- ・資料団体貸出の対前年比は紙芝居が115.3%と微増。一方で一般が62.6%と減少。
- ・行事参加者数について、「おはなし会」の対前年比が71%と減少。
- ・相互貸借について、11月～1月にかけて県外からの借受が3件、貸出が1件あった。
- ・広域利用、広域貸出数ともに、宮代町のシェア約70%、広域計約30%となり、昨年と同時期と同じように推移している。
- ・広域利用におけるWEB貸出延長利用状況はシェア宮代町が66.3%、広域地域合計で33.7%と昨年度と同じくらいの数字となっている。
- ・時間帯の利用者は10時～11時、14時～16時に利用される方が多い。

《（1）に関する主な質疑応答》

- 委員 電子書籍について。以前、日工大による電子書籍の使い方の講座などPRを行っていたが、あまり効果が無いようである。
- 図書館 引き続きPRに努めたい。
- 委員 行事について。「大人のための～」という行事がいくつかあったが、それらの統計はどの統計に反映されているのか。
- 図書館 「大人のための16ミリ映画会」は特別企画、「おとなのための昔話と音楽」は季節行事になっている。
- 委員 特別企画であっても毎年同時期に行われているものも散見され、季節行事との差がな

くなってきているものもある。また、それらの行事についても、個別に実績値を出してもらえるとありがたい。

図書館 行事の見直しや統計値の抽出について検討していく。

委員 広域貸出利用者数について。杉戸の図書館が1月6日から3月4日まで空調の工事のため休館していた。リクエスト受付以外は全部休んでいた。それにより杉戸からの1月と2月の貸出数が少し増えている。しかし、もっと増えなかったのかなという気がする。

(2) 重点課題（事業概要）令和7年度下半期について…清水館長から説明（別添資料参照）

《（2）に関する特記事項》

- ・利用者ニーズ地域課題に対応した資料収集について。他の公共図書館大学図書館との連携と相互協力の推進ということで、日本工業大学主催の「ほんの気持ち交換会」を企画。当日はオープンキャンパスも行われる。図書館で行うという話もあったが、スケジュールの調整がつかなかったということもあり、PRという形で協力となった。
- ・高齢者障がい者向けサービスの充実について。システムが更新となったこと、4月に予算がついたことで、新たに布絵本やデジ資料の貸出を行うこととなった。
- ・住民・利用者とともに育む図書館運営について。住民や利用者の交流と図書館運営の参画において、ライブラリーシアターを毎月開催。レコード鑑賞会を行った。日本工業大学や地域との連携による講演会等の実施について、日本工業大学によるものづくりギャラリーでは、展示ホールや研修室において展示を行い、盛況であった。東武動物公園の講演会は、今年は大人向けに行い、ホワイトタイガーの飼育係の仕事について講演をいただいた。郷土資料館との連携によるデジタル郷土資料を活用した協力講座を実施し、例年よりも多い参加があった。
- ・施設の適切な維持管理全部と快適な利用環境づくりについて。図書館玄関前の傾斜や第一駐車場の凹凸が車いす利用者にとって利用しづらい部分があるとの声を受け、図書館スタッフが車椅子等の介助をするサービスを始めた。第一駐車場思いやり駐車区画に設置しているサイン看板に介助サービスの案内を掲示した。

《（2）に関する主な質疑応答》

委員 「ほんの気持ち交換会」について。チラシ以外にポスターなどは無いのか。一般の人にも参加していただけるよう、館内にポスターなどを掲示したほうがよいのではないか。QRコードからの申込のみだとすると、高齢の方には難しいのではないか。

図書館 玄関ホールにチラシの掲示は行った。ポスターはもらっていないので、日工大に問い合わせをしてみる。日工大主催の事業であるため申込みについての詳細は把握していない。

委員 大特集コーナーのテーマについて。今回は「整える。」という動詞がテーマになっており、非常に良いと感心した。動詞がテーマになると、様々な意味でとらえることができるため選書の幅が広がる。実際、貸出数も伸びているようで、学校でテーマ別にディスプレイする際に参考になると感じた。ニーズに合った展示を特集されてよかったと思う。現在も借りる人が多いためか、棚が空になっている箇所もあった。

- 図書館 大特集は、おおよそ 200 冊～300 冊ほど出しているが、今回の特集ではそれらが貸出中になってしまった。補充冊数も限られるため空棚が目立つような状況になってしまった。
- 委員 テーマのアイデアが素晴らしいと感じた。
- 委員 児童の読書推進について。小学生は絵本から文字中心の読み物（童話など）への移行期になる。しかし、この移行は難しく、文字を追うことに必死で内容を楽しめなくなることが多い。「絵のない本でも面白い」と思えるようになるために、保護者や先生をはじめとする大人の読み聞かせが重要となる。図書館での取組でも、「おうちの方に読んであげてほしい本」として保護者の方に手に取ってもらえるようなテーマで配置しているが、貸出数は伸びない。よって、図書館には目につきやすいように、面出し・ポップなどの工夫を積極的に行ってもらいたい。また、学校においてブックトークの活動をしている中で、子どもたちの傾向として感じるのは、「面白い本」には手が出るが、「読んでほしい本」にはなかなか手が伸びないということ。そのような中、読書に関心のある先生のクラスでは読書量が増える傾向にあると感じる。よって、学校においても先生方に協力をお願いしたい。また、現在は図書館の方では子ども向けのブックトークはしていないが、どこかでできるようにしたいと考えている。
- 委員 小中学校との連携（支援）の項目の読書統計資料活用により児童生徒の読書指導を支援について。今委員が話した取組はその一環であると思われるが、支援とはボランティアが中心になって行っているのか。また、支援とは具体的には何を意味するのか。
- 委員 支援は図書館職員とボランティア両方で行っている。支援内容については、学校の規模や小学校の違いにより多少異なるものの、ボランティアは主に各学校に読み聞かせ、ブックトーク（対面・配信どちらも）などを行い、職員は小中学校で週 1 回図書室での活動のほか、図書館のオリエンテーションやブックトーク、小学 1 年生に 1 冊本をプレゼントする取組（らんどせるブック）などを行っている。また、ブックトークで紹介した本を、図書館のティーンズ向けコーナーに配置するなど連携した取組を行っている。
- 委員 ボランティアの方々をお願いしている部分がとても大きいと感じた。図書館で様々な活動に関わるボランティアの方々が、毎月おはなし会などを開催しているが、読んで終わりではなく、その際に毎回一冊紹介してもらおうという取組はどうか。また、子ども読書推進に関して児童館に関わる他の委員の方にも意見を伺いたい。
- 委員 児童読書推進のポイントは「昔話」ではないかと思う。最近、岩波書店から小沢俊夫著の昔話が 3 冊発刊された。非常に短い、話がまとまっていて、簡単に覚えられる内容になっており、2、3 分で読んであげることができる。こういったものを、耳で聞いてもらうのは効果があるのではないか。
- 委員 その活動は宮代おはなしの会スウズさんがストーリーテリングで行っているのではないか。
- 委員 ストーリーテリングも楽しいが、それらとは別に「ストーリーテリングで聞くお話の他にも日本の昔話で面白い話があるよ」と、他の本にもつなげていくことができればと思う。

- 委員 百間小でやろうと思っているのは、今のようなことである。瀬田貞二訳の「世界のむかしばなし」のような本を、朝の時間に一つだけ読んで、他は先生に空き時間に読み聞かせを依頼するような活動を考えている。先生を巻き込んでいくことも大切になると感じる。また、児童が自分で読もうとすると 3、4 年生でないと難しい内容であっても、話自体は幼稚園から 1 年生位に読んであげると良いお話というものもある。そういった本を、朝の時間に教室で読み聞かせ、その副本を置いて先生に続きを読んでもらうという活動を始めようと思っている。今までも部分朗読というものをやってきたが、それは 3 年生以上を対象に行っていた。1、2 年生に対しては童話を読んであげるといった点が抜けていると感じるため、学校だけでなく図書館でもできればと思う。しかし、図書館はスタッフも手いっぱいな状態である様子を見ているため、ボランティアなどに頼らなければならなくなっているのではないかと。
- 委員 小中学校には放送部や放送委員会などがあると思うが、そういった子どもたちの活動の中に読み聞かせの活動を入れてみてはどうか。高校に行くと放送大会、全国大会があり、遠くへ行き、調べ、それを語るということを行うことが多い。よって、その前段階のように小学校や中学校に放送委員や放送部が、音楽を流すだけでなく、昼休みに放送でお話をする時間や、トークをする時間を設けるなどのイベントを盛り込むのも面白いのではないかと。おそらく、中学生や小学生の中にもやりたい子どももいると思う。これらの部活や委員会に入る子どもたちの中には、話すことに興味を持った子どももいると思うため、こういった提案をしても面白いと思った。また、日頃ボランティアとして読み聞かせやブックトークに関わる方々と一緒に活動していくというのもよいのではないかと。
- 委員 その意見に関連して、なかなか実現はできていないが同様の活動を検討している。宮代町内の学校には教室にモニター画面がある。それらを使用して、昼休みや朝読の時間に図書室の中を映し本の紹介を配信するというもの。日々の活動だけでは、なかなか子どもたちは図書室に来てくれない。よって、(同じ配信でも) 画像がある方が良く、モニターを活用できたらと感じた。しかし、なかなか実現していないのが現状である。
- 委員 図書館での活動に関連して新聞の記事を紹介したい。図書館でボードゲームをすることで図書館に来るようになり、本も借りるようになったという記事を読んだ。こういったことが、本を手取るきっかけになることがあるのかと感じた。
- 図書館 図書館でやると予算も関係するほか、子どもたちが行事に来てくれるかどうかを考えると難しい部分もあるが一つアイデアとしてこういったものもあると思う。おそらく、この記事に載っているボードゲームは市販のものを図書館で資料として貸出すもの。この記事に載っているのは図書館でそれらを使用しイベントを行ったものであると考えられる。
- 委員 (図書館のスタッフは) 仕事がたくさんあり、なかなか導入は憚られるかと思いつつ記事を持ってきたが、一番は利便性の向上であると考えている。図書館に来館する人が年々減少する中で、時代の流れで仕方がないと言えばそれまでであるが、やはりどこかで減少を止めなければならないのではないかと。行事をやりましたというだけでは進

まない。何か新しいものがないと前進はできないのではないか。今まで通りのものを繰り返して、「利用者が来ない」「困った」で終わっている限り前進は無いと思う。

委員 (資料 2) ④高齢者・障がい者向けサービスの充実を図るということで、布絵本やデジタル資料を来年度から実施することについて以前から前進していると感じた。しかし、これらの資料は限られた障がいの人たちに対するサービスである。図書館に来ることができない方々への支援に力を入れないと、需要が伸びないのではないか。来ることができない人たちへの支援については毎回継続中となっているが、どういう継続をしているのか。以前新聞に久喜市の図書館が行った移動図書館（ブックモバイル）についての記事が出ていた。ブックモバイルの費用的には 500 万でできるそうである。よって、図書館だけではなく、町がどう考えているかというところが大きく関わってくると考える。これらについて町に伺いたい。

事務局 新しいことに取り組むという意見もあるが、まずは他館の事例に学び、現状分析を行ったうえで既存事業を改善・リニューアルすることで、来館・非来館に問わず利用者呼び戻す仕組み作りが必要であると考えている。来館できない人だけでなく、来館できる人も読書離れによってどの自治体も来館者数が減少傾向にあるが、近隣であると杉戸町の図書館はその中でも減少率が非常に小さい。共通課題がある中でも、こういった利用者を維持・獲得している自治体や指定管理者の事例を調査し、宮代町に合わせた形で導入することで、予算や継続性の有無にとらわれず、既存事業の見直しを含めた柔軟な施策の展開をしていきたいと考えている。現在、電子図書館は図書館に足を運べない方にも読書をしてもらえるサービスとして行っているが、まだ使いこなせない方や PR が足りない部分もある。しかし、図書館に足を運んでくれる人も足を運べない人であっても、電子図書館というサービスを知り、こういうサービスがあるのであれば本を読んでみようという考えにつながるようなサービスを他にも充実させていくことができればよいと考えている。

委員 「来られる人も含めて来館者数を増やすには」という話をされているようであるが、今来られない方に対するサービスについて何か考えがあるかということ伺いたい。電子図書館についても限られた方しか使用していない。また、絵本は電子では難しいと思う。

事務局 町が実現しようとしている第 2 次図書館ビジョンの中に様々な課題が載っている。来館できない方へのサービスについてもその一つである。宮代町立図書館は指定管理者制度によって TRC からこれら第 2 次ビジョンの課題に対する事業の提案を受けて、町からお願いしている。

委員 では TRC のからブックモバイルを提案されたならば予算は組める可能性はあるということか。

図書館 全ての事業を維持した状態で新たにブックモバイルを導入するというのは予算的にかなり難しいのではないかと思います。新たなことを導入するためにはその資金を集めるために、他の事業にかかる経費を見直さなくてはならない。使える資金は決まっている。

委員 今年中に実現するのは難しいと思うが、宮代町の図書館を皆に利用してもらえるために、来館が難しい高齢者や障がい者に対するサービスを重点的に考えていただきたい。

- 委員 個人的には、移動図書館を導入したとしてもその移動図書館が来る場所までも行けない人が出てくるのでいちごっこになり根本的な解決にはつながらないのではないかと思う。知人に脳梗塞で仕事を辞めざるを得なくなり、自宅で過ごしている方がいる。本を薦めたが金銭的にも買うことをためらっているようであった。調べてみるとその方が住んでいる地域の図書館では本の宅配サービスを行っていた。郵送で本が送付され、返却の送料を負担することで利用できるというもので、この件をきっかけにサービスを知った。移動図書館よりは安く済むこと、移動図書館が来るところまで行くのも難しいという方にはこのサービスはよいのではないか。
- 委員 確かに大上段に移動図書館と掲げてしまったが、来館ができない方へのサービスには、色々なサービスがある。大きな事だけでは無く、もう少し深く進めていただきたいと要望する。
- 委員 来年度から新たな第4期指定管理に入るが、初めの年になるので少しでも新たな何かサービスが検討できるようであったら検討していただきたい。
- 委員 図書館スタッフには伝えたが、今度行われる長期特別休館日について、より分かりやすいところに表示をしていただきたいとお願いした。毎日図書館に来る人ばかりではないため、そろそろ大きく張り出してもよいのではないか。
- 委員 手指消毒のテーブルに貼り紙があった。そこには大きく日にちが出ていた。
- 委員 今回の休館日はシステム切り替えのためであったが、特別整理休館日もあるのか。
- 図書館 本来蔵書点検と同じタイミングでシステム改修を行う予定であったが、今回は改修業者から間に合わないとの連絡があったためこのようなスケジュールとなった。
- 委員 承知した。

3. その他

- ・事務局より連絡事項

図書館協議委員会向けのアンケートを今年もお願いしたい。

次回の図書館協議会は6月上旬を予定しているので、後日日程調整を行う予定。

⇒開催日程については、委員への資料送付のスケジュールを含めて検討する。

4. 閉会